

「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」

「家族計画と女性の健康に関する研究～産み終え世代を中心に」

(分担研究：女性のリプロダクティブヘルスに関する研究)

分担研究報告書

分担研究者	北村 邦夫 ¹⁾
研究協力者	安達 知子 ²⁾
	村岡 光恵 ³⁾
	舟山 幸 ⁴⁾

要約

産み終え世代における家族計画への意識、その実態、リプロダクティブ・ヘルスの現状を明らかにするため、この時期の有経女性を対象にアンケートによる調査を行い、結果を分析した。有効回答数は197枚で、81.4%であった。年齢は38～53歳(平均45.3歳)で、夫との年齢差は約3歳、子供の数は1～4人で平均2.06人、産み終えて約15年の年月が経過していると考えられる背景を持っていた。人工中絶経験者は51名で、回答者の25.9%を占めた。既往歴、現病歴等から、血栓症や高血圧などピル服用の禁忌ないしハイリスクと考えられるものは44例、22.3%をしめた。避妊法について、過去に行っていた方法、将来行いたい

方法、確実と思う方法、さげたいと思う方法の4つの設問を行ったところ、80%以上の回答者は過去にコンドームを第1選択で使用しており、今後もコンドームと考えているものが2/3以上であった。一方、ピル、子宮内リングや不妊手術などの近代的避妊法は過去においても今後においても低値を示し、周期的禁欲法や陰外射精などが比較的高値を示した。最も確実と認識する避妊法もコンドームが1/3以上を占め、日本におけるコンドーム信奉の深さがよく理解できた。最も確実な方法としてのピルの選択は20%以上と上昇したものの、不妊手術は6%未満と低値を示した。最もさげたい避妊法としての第1選択は、ピル、子宮内リングと不妊手術が上位3つを占め、3つの合計はこの設問に回答したものの85%以上を占めた。ピルについて、低用量ピル認可に対する最近の話題を知っていたものは全体の2/3で、低用量ピルを使用してみたいと考えているものは約10%、50%以上が使用を希望せず、約30%がよくわからないと回答した。また、ピルの印象として、全体で約2/3が副作用がこわい、1/3が漠然と不安を感じると考えており、不確実な避妊法と思うと答えたものも5%にみられた。一方、女性が主体的、および確実な避妊法と答えたものは全体の約1/6、および1/8で、避妊以外にメリットがあると答えたものは約2%のみであった。今後認可される低用量ピルについては、確実な情報の提供と啓蒙が必要であると思われる。

-
- 1) (社) 日本家族計画協会クリニック
 - 2) 東京女子医科大学産婦人科
 - 3) 東京女子医科大学第二病院産婦人科
 - 4) 至誠堂第二病院産婦人科

見出し語：産み終え世代、家族計画、リプロダクティブ・ヘルス、ピル服用ハイリスク、低用量ピル、コンドーム、子宮内リング、不妊手術

研究方法

産み終え世代における家族計画への意識、その実態、リプロダクティブ・ヘルスの現状を明らかにするため、この時期の有経女性を対象に、研究協力者の所属する三病院(東京女子医科大学、同第2病院、至誠会第2病院)の産婦人科外来受診者、病院職員、都内某私立高校保護者に対し、平成9年9月～12月までに表1に示したアンケートによる調査を行い、結果を分析した。

研究結果

全アンケート回収は242名からであり、この内、年齢不詳、月経の有無の記載なし、閉経後、子供なしの不相当対象45名を省く、38～53歳の有経女性からの197枚(アンケート有効率：81.40%)について、分析を行った。

1. 回答者の背景

表2より、回答者の平均年齢45.3歳で、夫との年齢差は約3歳。子供の数は1～4人で平均2.06人。第一子分娩年齢26.9歳、最終分娩年齢30.4歳、最終妊娠年齢30.7歳。今後の育児を希望するものはいなかった。

以上より、産み終えて約15年の年月が経っていると考えられる背景を持つ。なお、人工中絶経験者は51名で、回答者の25.9%を占める。

ピル服用禁忌ないしハイリスク群は44例、22.3%でその内訳を以下に示した。

内訳 (BMI \geq 26：12名、6.1%、喫煙者5～20本(平均13.1本)：24名 12.2%、既往歴、現病歴より29名、14.7%が、高血圧、不整脈、高脂血症、糖尿病、血栓症既往、肝障害などを有し、「低用量経口避妊薬使用に関するガイドライン」¹⁾より、ピル服用禁忌ないしは慎重投与と考えられた。)

2. 避妊法について…すべてでの設問で4つまで選択可能

無回答 16名、 8.1%

1つ以上回答 181名、91.9%

以下、回答率は181名を100%としての比率で示した。また、各表におけるパーセントはその設問の回答者に対する割合で表示されている。

1) 過去に行っていた避妊法…回答者177名、回答率97.8% (表3)

第1選択の80%以上がコンドーム、第4選択までのすべての割合でも87%がコンドームであった。この年齢までに実施された不妊手術の中で、精管結紮は0、卵管結紮は2人で全体の1.1%と少ない。ピルおよび子宮内リング(IUD)はそれぞれ6.8%、周期的禁欲法および膣外射精がそれぞれ15.3%、26.6%と頻度が高い。

2) これから先希望する避妊法…回答者137名、回答率75.7% (表4)

第一希望だけで検討すると、67.9%がコンドーム、2番目に多かったのが、ピルと性交

渉を持たない”で同率の8.0% (11名)であった。”特に避妊しない”が4.4% (6名)と次に多かったが、今回の対象はすべて今後子供はいらぬとしていることから、この”特に避妊しない”でも子供はできないと考えているのならば、極端に性交渉が少ないか、ほとんどないかのどちらかとも考えられ、「性交渉を持たない」との回答者と合わせて17名、12.4%の女性が第一希望として、今後性交渉を持たないでもよいと考えていると推測される。第3希望までで不妊手術の希望者は5名で、3.7%と少ない。

3) 確実と思われる避妊法…回答者126名、回答率69.6% (表5)

第一選択での分析で、コンドームが最も確実と考えている者が一番多く、36.5%、1/3以上である。性交渉を持たないが27.0%と次に多い。ピルは23.8%と比較的高いが、一方、不妊手術を最も確実と考える人は少ない(5.6%)。第4選択までの分析で、少数ではあるが周期的禁欲法や膈外射精を確実な避妊法に挙げる人がいる。

4) やりたくない、あるいはやらないと思われる避妊法…回答者105名、回答率58.0% (表6)

第一選択でピルが34.3%と一番嫌われている避妊法である。第四選択までの合計では、卵管結紮46.7%、精管結紮32.4%、この不妊手術の少なくとも一方を選択した者は56名、53.3%と頻度が高く、また、IUDは54.3%、ピルは44.8%である。避妊効果が最も高いいわゆる近代的避妊法の上記3つのうち少なくとも1つ以上を選択したものは99名、94.3%である。その理由として、不妊手術とピルに関するものは後の設問で述べるが、IUDについては、体内に異物をいれたくないとの理由が多かった。

3. 不妊手術について…回答率94.4%

表7に示したように、本避妊法を知らないものは18.8%、希望するものは5.6%と極めて少ない。希望しない理由は、複数回答可で、体に傷がつくのに抵抗有り39.5%、入院治療がわずらわしい30.2%、男性・女性として抵抗有り23.3%、を抑えて、他の避妊法で十分が43.0%とトップであった。

4. ピル…回答率95.4%

表8に示したように、低用量ピルの認可についての話題を知らないものが28.4%と、1/4以上のものが知らなかった。

ピルを使用してみたいとするものは約10%、これに対して使用したくないと答えたものは、56.3%と過半数を占め、わからないというものが約30%を占めた。

ピルの印象として、ピルを使用したいと答えたものは、確実な避妊法、副効用、女性が主体的に避妊できるなど積極的な意見が多いが、8名42.1%が副作用がこわいと答えていた。一方、使用したくないと答えたものの70%以上が副作用が怖い、33.3%が漠然と不安を感じるを選択しており、全体で、約2/3が副作用がこわい、約1/3が漠然と不安を感じる、約1/5が女性にばかり負担がかかると考えており、不確実な避妊法と思うと答えたものが9名4.7%にみられた。一方、女性が主体的、および確実な避妊法と答えたものは、全体の約1/6、および1/8で、避妊以外にメリットがあると答えたものは、わずか4名2.1%であった。

考察

今回の調査対象は、1人以上の子どもを有し、しかも今後は子どもを希望しないという38～53歳（平均年齢 45.3歳）の有経女性197名であった。従って、確実な避妊法を望んでいる世代とも考えられる。対象に対し、性交回数についての設問はなかったが、本多の報告による全国3000人を越える既婚女性の調査の結果分析²⁾から、40歳前半(407名)と後半(367名)の日本女性の平均性交回数は、週3回以上は3.2%と4.1%と低いものの、週に1～2回、23.8%と19.3%、2週に1～2回、23.1%と18.8%、月に1～2回、22.4%と25.9%、月1回未満、18.4%と23.2%、なし9.1%と8.7%であった。従って、1/4～1/3の女性は月1～0の性交と考えられる。避妊法についての調査では、過去に行っていた方法、将来行いたい方法、確実と思う方法、さげたいと思う方法の4つの設問について、それぞれ4つまでの選択を可として行ったところ、予想通り過去、将来ともにコンドームが断然トップで、70～85%を占めた。厚生省統計情報部の「人口動態統計」によると、1995年の我が国の40歳代の女性の妊娠中絶率は75.5%と極めて高いが、リプロダクティブ・ヘルスの概念の中から、生殖と切り離れた豊かな性の享受を考えた時、この世代にはより確実な避妊法が必要で、そういった意味からは近代的避妊法(ピル、不妊手術、子宮内リング)を選択するものが増加すべきと考えられた。しかし、子宮内リングや不妊手術の選択はきわめて少なく、さらに17名、12.4%の女性が第一希望として、今後性交渉を持たないでもよいと考えていると推測されることから、リプロダクティブ・ヘルスの原点には逆行する日本女性の性生活への考え方がうかがわれる。この考察はさらに、次の確実と思われる避妊法での設問でより確信された。すなわち、コンドームに次いで「性交渉を持たない」が2番目に多かったことである。性交渉を持たないことは確実な避妊法としてもっともな選択であるとも考えられるが、避妊法の1つとして「性交渉を持たない」を捉えるところに問題があると考えられる。米国FDAの調査から、コンドームに比較して、ピルや不妊手術の避妊効果は10～100倍確実であることが知られている³⁾が、もっとも確実な避妊法の第1選択と第2選択に卵管結紮、精管結紮を挙げたものはコンドームを選択したもののそれぞれ1/4以下であり、また、少数ではあるが周期的禁欲法や膈外射精を確実な避妊法に挙げた人がいるところに情報量の少なさを、過った認識のあることがわかる。この世代が現在のティーンエイジャーの親世代であることから、若い世代に対する性教育を家族主体に行うには不安が大きく、オランダのように生物の授業で性教育を行う⁴⁾とまではいかなくても、学校の義務教育課程で、性教育をさらに組み入れる必要性を感じる。敬遠したい避妊法のなかで近代的避妊法の3つが95%近くを占めたが、この内、不妊手術を敬遠する一番の理由は、「他の避妊法で十分」が43.0%とトップである。しかし、本対象の「確実な避妊法」の認識レベルでは、きわめて心許ないと思われた。

ピルについては、低用量ピルの話題を知らないものも多く、この世代のピルについての関心の薄さや、情報の少なさを痛感した。ピルについて、種々の副作用は認められるものの⁵⁻⁷⁾、同時に多くの副効用がある⁸⁾ことも調査されており、また、副作用はピルの低用量化によりきわめて軽微となっている⁹⁾ことも知られている。今回の対象はピルについて不安感や副作用についての心配はもつものの、避妊以外にメリットがあることを知っていたものは、わずかに4名であった。このことから、ピルについての正しい情報の提供や啓蒙は必要と思われる。

今後、低用量ピルが認可された際には、この世代に対してもピルは避妊の選択肢として重要ではある。しかし、今回の対象の背景調査で明らかとなったように、産み終え世代の約1/4はピル使用に対しハイリスクであること、性生活がきわめて少ないことに寛容である世代であること、性交回数がきわめて少ないもの(月1回未満)が1/4～1/3を占めると推測されることなどを念頭に置いた避妊指導が必要と考えられた。

平成9年度 厚生省 生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究
アンケート調査

女性が生き生きと生涯をおくるために、子供を産みたい時期があるのと同様、避妊したい時期があるのは当然です。しかし日本では簡単で確実な避妊法が普及していなかったためか、望まない妊娠による人工妊娠中絶が多く、特に40才代の女性の妊娠中絶率は80%を超えています。そこでお子さんがすでにいらっしゃる方を対象に上記厚生省の研究の中の「家族計画と女性の健康に関する研究」の為にアンケート調査のご協力をお願い致します。

(アンケートは匿名であり、すべて個人のプライバシーは守られています。)

1. 年齢：夫 ___才 妻 ___才 現在のお子さんの数 ___人
出産時年齢： 第1児出産時年齢 ___才 最終出産時年齢 ___才
最終妊娠時（流産・子宮外妊娠なども含む）年齢 ___才
人工流産の経験： 有 ・ 無（どちらかに○）
現在月経はありますか： 有 ・ 無（どちらかに○）
近い将来さらに妊娠出産を希望するか： はい・いいえ（どちらかに○）
2. 身長 ___cm 体重 ___kg 喫煙： 無 ・ 有 ___本/日
3. 過去または現在の病気（合併症） ○で囲んで下さい
a. 高血圧 b. 心疾患 c. 不整脈 d. 糖尿病 e. 高脂血症（高コレステロールも含む）
f. 腎機能障害 g. 肝機能障害 h. 静脈血栓症 i. 下肢静脈瘤 j. その他血栓
k. 膠原病 l. てんかん m. 悪性腫瘍 n. 結核 o. 貧血 p. その他（ ）
4. 長期間（3ヶ月以上）服用中の薬： 有（薬剤名： ） ・ 無
5. 避妊法について以下、右ページのa~mまで選んで記号を入れて下さい。
(1つでも可、複数であれば頻度の高い順に)
(1) 過去に行っていた避妊法 1() 2() 3() 4()
(2) これから先希望する避妊法 1() 2() 3() 4()
(3) 確実と思われる避妊法 1() 2() 3() 4()
(4) やりたくない、あるいはやらないと思われる避妊法
1() 2() 3() 4()
(5) (4)を選んだ理由 ()

文 献

- 1) 水口弘司、桑原慶紀、北村邦夫、前原大作：座談会「低用量ピルの使い方」 Medical Tribune. 1998年1月15日発行
- 2) 本多洋：日本女性の性生活について 産婦人科の世界 46：819-826, 1994
- 3) 北村邦夫：低用量ピルとはなにか 助産婦雑誌 50：183-191, 1996
- 4) ホットライン 少子化、高齢化-オランダ 日本経済新聞27面 1998年3月15日発行
- 5) 植村次雄、鈴木亮子：低用量ピルの副作用1 マイナートラブル 臨婦産 51：382-384, 1997
- 6) 寺尾俊彦：低用量ピルの副作用1 血栓症 臨婦産 51：386-390, 1997
- 7) 武谷雄二：低用量ピルの副作用1 発癌 臨婦産 51：392-395, 1997
- 8) 高橋健太郎、宮崎康二：低用量ピルの副効用 臨婦産 51：402-405, 1997
- 9) 青野敏博、苛原稔、東敬次郎：低用量ピルの特徴 臨婦産 51：366-369, 1997

表1. 回答者の背景

	N	Range	Mean±SD	回答率
夫の年齢	194	38~59	48.31±4.01	98.5%
妻の年齢*	196	38~53	45.32±3.17	99.5%
子ども数	195	1~4	2.06±0.61	99.0%
第1子分娩年齢	197	17~36	26.90±2.98	100%
最終分娩年齢	197	22~41	30.41±3.18	100%
最終妊娠年齢	181	22~44	30.72±3.31	91.9%

妻の年齢*=回答者の年齢

表2. 過去に行っていた避妊法 (回答者 177 名に対する割合)

	第1回答		第2回答		第3回答		第4回答		総回答	
	n	177	58	31	10	276				
a. コンドーム	145	81.9%	2	1.1%	7	4.0%	0	0.0%	154	87.0%
b. ピル	0	0.0%	10	5.6%	2	1.1%	0	0.0%	12	6.8%
c. 子宮内リング	5	2.8%	5	2.8%	2	1.1%	0	0.0%	12	6.8%
d. ベッサリー	1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	1	0.6%	4	2.3%
e. ピア	0	0.0%	2	1.1%	1	0.6%	0	0.0%	3	1.7%
f. 周期的禁欲法	14	7.9%	3	1.7%	7	4.0%	3	1.7%	27	15.3%
g. 膈外射精	4	2.3%	32	18.1%	7	4.0%	4	2.3%	47	26.6%
h. 殺精子剤	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%
i. 卵管結紮	2	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.1%
j. 精管結紮	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k. 性交渉をもたない	2	1.1%	2	1.1%	2	1.1%	2	1.1%	8	4.5%
l. 特に避妊しない	4	2.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	2.8%
m. その他	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.6%
回答率		100%		32.8%		17.5%		5.6%		

表3. これから希望する避妊法（回答者 137 名に対する割合）

	第1回答		第2回答		第3回答		第4回答		総回答	
	n									
a. コンドーム	93	67.9%	4	2.9%	0	0.0%	0	0	97	70.8%
b. ピル	11	8.0%	4	2.9%	0	0.0%	0	0	15	10.9%
c. 子宮内リング	4	2.9%	4	2.9%	0	0.0%	0	0	8	5.8%
d. ベッサリー	0	0.0%	1	0.7%	1	0.7%	0	0	2	1.5%
e. ピア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%
f. 周期的禁欲法	6	4.4%	11	8.0%	2	1.5%	0	0	19	13.9%
g. 膣外射精	2	1.5%	5	3.6%	1	0.7%	0	0	8	5.8%
h. 殺精子剤	1	0.7%	2	1.5%	0	0.0%	0	0	3	2.2%
i. 卵管結紮	1	0.7%	0	0.0%	1	0.7%	0	0	2	1.5%
j. 精管結紮	2	1.5%	0	0.0%	1	0.7%	0	0	3	2.2%
k. 性交渉をもたない	11	8.0%	2	1.5%	1	0.7%	0	0	14	10.2%
l. 特に避妊しない	6	4.4%	1	0.7%	0	0.0%	0	0	7	5.1%
m. その他	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	0	0	1	0.7%
回答率		100%		24.8%		5.8%		0%		

表4. 確実と思われる避妊法（回答者 126 名に対する割合）

	第1回答		第2回答		第3回答		第4回答		総回答	
	n									
a. コンドーム	46	36.5%	5	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	51	40.5%
b. ピル	30	23.8%	7	5.6%	1	0.8%	2	1.6%	40	31.7%
c. 子宮内リング	7	5.6%	3	2.4%	2	1.6%	0	0.0%	12	9.5%
d. ベッサリー	0	0.0%	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%	3	2.4%
e. ピア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f. 周期的禁欲法	2	1.6%	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	3.2%
g. 膣外射精	0	0.0%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.4%
h. 殺精子剤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i. 卵管結紮	3	2.4%	8	6.3%	4	3.2%	0	0.0%	15	11.9%
j. 精管結紮	4	3.2%	5	4.0%	7	5.6%	3	2.4%	19	15.1%
k. 性交渉をもたない	34	27.0%	7	5.6%	2	1.6%	3	2.4%	46	36.5%
l. 特に避妊しない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m. その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答率		100%		32.5%		13.5%		7.1%		

表5. やりたくない、あるいはやらないと思われる避妊法 (回答者 105 名に対する割合)

	第1回答		第2回答		第3回答		第4回答		総回答	
	n									
a. コンドーム	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	1.0%
b. ピル	36	34.3%	4	3.8%	4	3.8%	3	2.9%	47	44.8%
c. 子宮内リング	29	27.6%	24	22.9%	4	3.8%	0	0.0%	57	54.3%
d. ベッサリー	2	1.9%	15	14.3%	13	12.4%	2	1.9%	32	30.5%
e. ピア	1	1.0%	1	1.0%	2	1.9%	3	2.9%	7	6.7%
f. 周期的禁欲法	4	3.8%	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	6	5.7%
g. 膈外射精	2	1.9%	3	2.9%	1	1.0%	3	2.9%	9	8.6%
h. 殺精子剤	1	1.0%	3	2.9%	7	6.7%	2	1.9%	13	12.4%
i. 卵管結紮	23	21.9%	8	7.6%	9	8.6%	9	8.6%	49	46.7%
j. 精管結紮	4	3.8%	17	16.2%	6	5.7%	7	6.7%	34	32.4%
k. 性交渉をもたない	2	1.9%	1	1.0%	3	2.9%	0	0.0%	6	5.7%
l. 特に避妊しない	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%
m. その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答率		100%		74.3%		48.6%		27.6%		

表6-1 不妊手術を知っている (回答率 97.0%)

	N	%
はい	154	78.2
いいえ	37	18.8
無回答	6	3.0
合計	197	100.0

表6-2 不妊手術を希望する (回答率 94.4%)

	N	%
はい	11	5.6
いいえ	173	87.8
無回答	13	6.6
合計	197	100.0

表6-3 不妊手術を希望しない理由（複数回答）N=172

	N	%
1. 入院、治療がわずらわしい	52	30.2
2. 体に手術の傷がつくのに抵抗がある	68	39.5
3. 一次的にコストがかさむ	10	5.8
4. 男性または女性として抵抗がある	40	23.3
5. 他の避妊方法で十分である	74	43.0
6. 避妊の必要がない	12	7.0
7. 医師がすすめない	4	2.3
8. その他	5	2.9

表7-1 低用量ピルが認可されようとしていることを知っていますか（回答率 95.4%）

	N	%
はい	132	67.0
いいえ	56	28.4
無回答	9	4.6
合計	197	100.0

表7-2 ピルについてどう思いますか

	N	%
1. 使用してみたい（希望）	20	10.1%
2. 使用したくない（イヤ）	111	56.3%
3. よくわからない（?）	58	29.4%
無回答	8	4.2%
合計	197	100.0%

表7-3 ピルの印象（複数回答）

	1. 希望		2. イヤ		3. ?		無回答	総回答	
n	20		111		58		8	197	
1. 漠然と不安を感じる	2	10.0%	37	33.3%	24	41.4%		63	32.0%
2. 副作用がこわい	9	45.0%	79	71.2%	45	77.6%		133	67.5%
3. 避妊以外にメリットがあると思う	4	20.0%		0.0%		0.0%		4	2.0%
4. 確実な避妊法と思う	10	50.0%	7	6.3%	7	12.1%		24	12.2%
5. 不確実な避妊法と思う		0.0%	7	6.3%	3	5.2%		10	5.1%
6. エイズが増加すると思う	4	20.0%	18	16.2%	6	10.3%		28	14.2%
7. 女性ばかりに負担がかかると思う		0.0%	32	28.8%	10	17.2%		42	21.3%
8. 女性が主体的に避妊できる	9	45.0%	15	13.5%	11	19.0%		35	17.8%
9. その他	2	10.0%	3	2.7%	2	3.4%		7	3.6%



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

産み終え世代における家族計画への意識、その実態、リプロダクティブ・ヘルスの現状を明らかにするため、この時期の有経女性を対象にアンケートによる調査を行い、結果を分析した。有効回答数は197枚で、81.4%であった。年齢は38~53歳(平均45.3歳)で、夫との年齢差は約3歳、子供の数は1~4人で平均2.06人、産み終えて約15年の年月が経っていると考えられる背景を持っていた。人工中絶経験者は51名で、回答者の25.9%を占めた。既往歴、現病歴等から、血栓症や高血圧などピル服用の禁忌ないしハイリスクと考えられるものは44例、22.3%をしめた。避妊法について、過去に行っていた方法、将来行いたい方法、確実と思う方法、さけたいと思う方法の4つの設問を行ったところ、80%以上の回答者は過去にコンドームを第1選択で使用しており、今後もコンドームと考えているものが2/3以上であった。一方、ピル、子宮内リングや不妊手術などの近代的避妊法は過去においても今後においても低値を示し、周期的禁欲法や膈外射精などが比較的高値を示した。最も確実と認識する避妊法もコンドームが1/3以上を占め、日本におけるコンドーム信奉の深さがよく理解できた。最も確実な方法としてのピルの選択は20%以上と上昇したものの、不妊手術は6%未満と低値を示した。最もさけたい避妊法としての第1選択は、ピル、子宮内リングと不妊手術が上位3つを占め、3つの合計はこの設問に回答したものの85%以上を占めた。ピルについて、低用量ピル認可に対する最近の話題を知っていたものは全体の2/3で、低用量ピルを使用してみたいと考えているものは約10%、50%以上が使用を希望せず、約30%がよくわからないと回答した。また、ピルの印象として、全体で約2/3が副作用がこわい、1/3が漠然と不安を感じると考えており、不確実な避妊法と思うと答えたものも5%にみられた。一方、女性が主体的、および確実な避妊法と答えたものは全体の約1/6、および1/8で、避妊以外にメリットがあると答えたものは約2%のみであった。今後認可される低用量ピルについては、確実な情報の提供と啓蒙が必要であると思われる。